

「旭川市地域公共交通計画（素案）」に寄せられた意見と市の考え方

意見募集期間 令和6年2月16日（金）～令和6年3月18日（月）

意見提出数 56件（個人56件、団体0件）

※御意見につきましては、類似した意見をまとめたり、読みやすくするために要約・修正等を行っています。

| 寄せられた意見 | 市の考え方 |
|---|--|
| ○路線バスの便数・利便性等に関する意見（37件） | |
| 近年の路線の改変以降、最寄りのバス停の本数減り外しづらくなりました。 | |
| 東鷹栖地区について、バスの減便により帰りのバスを1時間以上待つことが度々あります。バス利用者の負担が軽減されることを考えいただきたいと思います。 | 本市では、公共交通利用者数の減少や運転手不足等の交通事業者の環境の変化が見られ、利便性の確保と運行に必要なコストを両立した公共交通網の構築が課題となっています。本計画では、1日5往復以上の路線や鉄道・デマンド交通は計画期間中の維持を目指し、また、郊外の交通不便地域については、既存のバス路線等による公共交通の確保を基本としますが、路線を維持することが困難となった場合は、地域の多様な輸送資源を活用しながら、効率的かつ持続可能な移動手段の確保について検討してまいります。 |
| バスの減便が続き不便になっている。高齢者が増える中、利用者が減ることのないよう利便性の確保を求めたい。 | |
| 永山、医大、市立病院に行くのにバスは乗り換えがあり不便だが、タクシーは高い。 | |
| 末広地域はバスが減便され不便。 | |
| 路線バスの減便が続き困っている。 | |
| 路線バスが減便され、免許返納後の生活が不安。 | |
| 現状維持を望みます。 | |
| 旭川市はもっと市民の目線でバス路線を便利にすることを考えて欲しい。交通の便を現状維持して下さい。 | |
| これ以上減便されると日常生活に支障を来すため、減便はしないでほしい。 | |
| 日中のバスの本数が少ないように感じる。 | |
| バスの運行本数が減ると、外出機会が少なくなり、社会とのつながりが減る。通院や通所にも支障をきたします。 | |
| 便数増や、接続改善など大きな病院へのアクセスを考えて欲しいと思います。 | |
| 乗り換えの接続が良くなく、待つ時間が非常に長く苦痛です。 | |
| 中心部でのバス停が分かりづらいので、高齢者や旅行者に対する表示をもっと分かりやすくして欲しいと思います。 | |
| どの路線も1時間に1本以下で非常に不便。CO2削減するためにマイカーは出来るだけ避けたい。 | |
| バス停、待合環境の改善は周囲で一番多い要望です。高齢者や体の不自由な方にとつて、少しの風や雨をしのげるだけで助かるのです。腰掛けるベンチがあるなら、小さな子ども連れでも荷物があっても、乗みたいと思う人が増えるでしょう。これはいわば潜在的な乗客の掘り起こしにもつながると思うのです。街中に出ることだけでなく、郊外に遠足に行ったり、窓元を訪れたり、博物館に行くことがより簡便に出来るなら、旭川市民の文化生活にも十分寄与することが可能です。一定の収入のある方であれば、消費だけでなく文化活動に積極的に参加することがわかっています。公共交通機関の利用がそれを促進することにつながると思います。同時に長期間に及ぶ冬場の停留所周辺の除雪は切実な課題です。市内の除雪の課題と重なりますので、多角的な取り組みをお願いしたいと思います。 | |
| (ほか類似意見20件) | |
| ○タクシーの利用や利便性等に関する意見（12件） | |
| タクシーの予約が困難。 | 利便性の向上に向けた取組の実施について、事業者等と協議を行ってまいります。 |
| ワンコインタクシーなど安価なタクシーの実現を望む。 | |
| タクシーは使いづらいと聞いている。 | |
| 今年の冬はタクシーもなかなかつかまらず、大変でした。もう少しなんとかして欲しいです。 | |
| タクシーを利用しているが、最近はなかなかつかまらず、不自由をしています。 | |
| (ほか類似意見7件) | |

「旭川市地域公共交通計画（素案）」に寄せられた意見と市の考え方

意見募集期間 令和6年2月16日（金）～令和6年3月18日（月）

意見提出数 56件（個人56件、団体0件）

※御意見につきましては、類似した意見をまとめたり、読みやすくするために要約・修正等を行っています。

| 寄せられた意見 | 市の考え方 |
|---|--|
| ○高齢者の交通に関する意見（22件） | |
| 高齢者ばかりの町になりつつある配慮をすること。バス（低床バス）の活用をすすめる。 | 高齢者や障がいをお持ちの方も利用しやすい公共交通に向け、ノンステップバスやユニバーサルデザインタクシー車両の導入に関する事業や利用環境の改善に関する事業に引き続き取り組んでまいります。 |
| 高齢者にやさしい対策を願いたい。 | また、寿バスカードについては、高齢者の健康維持のほか、バスの利用促進という側面もあることも踏まえながら、限られた財源の中で継続していくための事業の在り方を検討してまいります。 |
| 安心して免許返納ができるようにして欲しい。 | |
| 高齢者に対応した交通計画をお願いします。 | |
| 寿バスカードの制度継続を希望 | |
| 寿バスカードは嬉しい制度である。 | |
| 寿バスカードについて、市の予算の厳しさは理解しますが、高齢者の健康維持のためにも現行制度の改悪がないようお願いします。 (ほか類似意見15件) | |
| ○運行方法やその他の交通に関する意見（15件） | |
| タクシーの活用を、バスと連携し、市内どこでも一定料金で活用出来るような思い切った交通対策を、国、道、市が一体となって取り組んでください。 | バス路線を維持することが困難になった場合やバス路線等がない地域は、デマンド型交通を含む地域の多様な輸送資源を活用しながら、効率的かつ持続可能な移動手段の確保について検討してまいります。 |
| 東鷹栖地区について、愛別町の方法を参考にしてはどうでしょうか。 1 予約制で自宅から目的地、又は目印になる建物に集合してもらうこと 2 利用時間 午前と午後各2回ほど 3 料金 片道5キロを境界として設定 4 送迎する人 地区の人又は近隣の人（知らない人だと不安だから） | また、利便性の向上等に向けた御意見につきましては、本計画の取組の推進に当たり参考とさせていただきます。 |
| 小回りのきくマイクロバスを使い、予約制で自宅から目的地近くまで乗れたら便利。乗合タクシーなど、一定料金で乗れたら利用したい | |
| 循環バスの設定や、郊外部の安価なタクシーの設定など、高齢者が外出しやすい環境の実現を望む。 | |
| 予約する利用者に応じて、時刻や経路が柔軟に変わるデマンド交通システムのさらなる検討を希望 | |
| ライドシェアの実施を求める。また以前永山地区で実施したバス運行の再開、拡大を行なうべき。 | |
| デマンド型交通などきめ細かい交通を望む。 | |
| 買物、通院に便利なデマンドバスなどを期待しています。 | |
| 旭川駅周辺における公共交通案内の整備は、すこしでも早く取り組んでほしいと思います。またローカル駅にも目を向け、旅行客が旭川地域の自然や資源、人との交流が円滑にできるよう情報収集も必要です。メディア等で西神楽地域等の郊外の新しい情報の発見があるが、散逸しているのが現状。車での移動に寄らない、旭川ステイを提案できるよう、工夫が求められていると思う。そのためにも鉄道とバスの接続強化が求められますし、地元の住民が利用しやすいダイヤを作るための意見交換も必要だと思います。 | |
| 上士幌町のように自動運転バス定期運行を試みてください。タクシーや複数のバス会社の連携で、利用しやすくなるよう行政が調整してください。 | |
| (ほか類似意見5件) | |

「旭川市地域公共交通計画（素案）」に寄せられた意見と市の考え方

意見募集期間 令和6年2月16日（金）～令和6年3月18日（月）

意見提出数 56件（個人56件、団体0件）

※御意見につきましては、類似した意見をまとめたり、読みやすくするために要約・修正等を行っています。

| 寄せられた意見 | 市の考え方 |
|---|---|
| ○運転手の確保に関する意見（10件） | |
| 運転手不足の原因を求めて、解決の方策を考えて欲しいです。労働条件が非常に悪いと聞いており、若い人たちが交通機関で働き生涯生活するにはどうしたら良いのか、調査し改善を願います。若者が当たり前に働いて生活できる労働時間と賃金の保障を、旭川独自の課題として取り組んでください。 | 公共交通の運転手確保については、全国的に運転手不足が深刻化しており、持続的に公共交通を維持するためには、対策は急務です。本市では免許取得等に係る補助制度のほか、運転手の確保に向け交通事業者や広域行政とが連携した取組を行っており、今後も効果的な取組や支援に向けた検討を行ってまいります。 |
| バス・タクシーの維持のため、乗務員の待遇改善が必要。 | |
| 運転手確保に対する補助は何よりも優先すべき課題である。 | |
| 運転手不足の対策など、公共交通を確保する取組の実施を希望。 | |
| 運転をやめる人も増えると思うので、バス会社への補助やタクシー運転手の増加への補助など市としての取組の強化を求める。 | |
| 事業者への支援により、バスやタクシーの運転手の待遇改善を図るべき。 | |
| （ほか類似意見4件） | |
| ○コンパクトな市街地形成に向けた意見（4件） | |
| 街のコンパクト化、歩いて暮らせる生活範囲とは、高齢者は郊外に住めなくなる不安が大きい。この地域に住みたいという憲法第22条の居住の自由、第13条の個人の尊重、第14条の方の下の平等、第25条の生存権と社会保障権を国の義務などを考え、市民の声をていねいに聞き、旭川市政を築き、市民の声を国や道へ届けていただきたい。 | 今後のまちづくりにおいては、人口減少や少子高齢化など様々な社会経済環境の変化に対応することが課題であり、持続可能で安心快適なまちづくりを掲げ、将来を見据えた都市機能を維持しつつ、生活環境の形成を目指すこととしており、コンパクトで利便性と持続性の高いまちづくりを進めてまいりたいと考えております。 |
| 市はコンパクトな都市づくりを目指しているが私はこの先もこの地で住み続けたいと思っており、居住権を保障するとともに、もっと豊かで便利になる事をお願いする。 | 本計画と連携している旭川市立地適正化計画では、コンパクトなまちづくりを進めるに当たり、中心市街地や地域核拠点とその周辺、基幹的な公共交通網沿道などの徒步圏を中心に居住誘導区域を定め、人口密度の高い居住地の形成を図ることとしているほか、居住誘導区域に含まれない既存の良好な住宅市街地においては、これまでどおり戸建て住宅を中心とした、ゆとりある住環境の維持を図っていくものとしております。一方で、バス路線の維持ができなくなった地域等においては、地域の多様な輸送資源を活用しながら、移動手段の確保について検討するとしておりますので、今後も本計画に基づき、持続可能な公共交通網の構築に向けた取組を進めてまいります。 |
| コンパクトな都市づくりには反対である。老人や障害をもつた人達にも優しい都市計画にしてほしい。住民の意見を聞いてほしい。15年先より、5年先に計画の実現を目指すべき。 | |
| コンパクトシティの旭川において、公共交通の衰退は地域の非活性化の原因となる。 | |
| ○行政の支援に関する意見（8件） | |
| 高齢のため免許返納もやむを得ないが、バスは使いづらい、タクシーはつかまらないといふ状況では買物にも病院にも行けなくなるので、現状維持に止まらず、移動手段を公的責任で充実させていただきたい。 | 人口減少の傾向等により、今後移動手段の確保において地方公共団体が果たす役割は大きくなってきており、本市におきましても、旭川市地域公共交通計画における公共交通網の目指す姿の実現に向けて、目標達成に向けた取組を事業者と連携して進めてまいります。 |
| タクシーの活用を、バスと連携し、市内どこでも一定料金で活用出来るような思い切った交通対策を、国、道、市が一体となって取り組んでください。 | |
| 10年先のビジョンの前に市民の足として公共交通の維持には公的助成が必要。 | |
| フランスでは公共交通無料化を実施しており、効果として気候変動対策の推進や経済弱者の購買力強化、中心市街地の活性化などがあり、バス利用者も激増したため、旭川市でも是非検討して下さい。 | |
| 昨年、地元の市民委員会が直接バス事業者と話し合った結果、江丹別のバス路線が一日一往復から4往復に増えたとの記事を見たが、交通不便地域と言われる地域の課題をその地域だけで解決することをよしとするか疑問が生じました。成功事例を今後の典型にすることも大事なので、他の地域でも同様に解決につながるよう、行政側の支援をしてほしいと思います。デマンド型の先行事例を今後も維持すると素案にあります、公共交通路線網という位置づけを堅持し、改善可能な案を排除しないでほしいと思います。 | |
| （ほか類似意見3件） | |

「旭川市地域公共交通計画（素案）」に寄せられた意見と市の考え方

意見募集期間 令和6年2月16日（金）～令和6年3月18日（月）

意見提出数 56件（個人56件、団体0件）

※御意見につきましては、類似した意見をまとめたり、読みやすくするために要約・修正等を行っています。

| 寄せられた意見 | 市の考え方 |
|--|--|
| その他の意見（10件） | |
| 市の財政状況や路線の利用状況を考えると、現状維持が精一杯なのは理解できます。できる限り利用しやすいように計画が組まれていると思うので、実現していただきたい。 | いただいた御意見は、今回の素案内容に沿うものであり、内容にご賛同いただいたものとして受け止めさせていただきます。公共交通利用者の利便性向上につながるよう本計画に基づく取組を行ってまいります。 |
| バス路線に関する社会調査が繰り返されましたら、どのように総括され課題解決に生かされたのか、市民に伝わっておらず、市民との意見交換が必要だと感じています。今回のように、行政からの情報提供と意見募集は定期的な実施が必要だと思う。単に市民を「啓発」するのではなく、解決策と一緒に考えるという姿勢が求められているのではないかでしょうか。 | 本計画の策定やその他の事業において市民アンケート等の調査を行い、公共交通に関する現状や課題、市民ニーズ等を調査させていただきました。人口減少及び少子高齢化が進む中、全国的な運転手不足等の課題もあり、一気に課題解決ができるような方法を見つけるのは難しいですが、事業者等の関係団体と検討を行うとともに、課題解決に向けた情報提供及び意見募集等についても行ってまいります。 |
| 外出しやすい条件によって、人は動くことが出来ます。高齢者や社会保障にあてる財源が無駄金だと考えるのは違うと思います。社会保障や福祉に使うお金こそ経済を循環させ活性化することになると見えます。地産地消は誰もが気持ち良い暮らしを享受出来ることに結びつきます。 | 暮らしやすい地域づくりや移動手段の確保は、地域の振興を図る上で必要なものであり、持続可能な公共交通網の構築に向け、本計画に基づく取組を行ってまいります。 |
| 町内会、市民の声を聞き、時間をかけて一緒に良い計画を作って下さい。 | 本計画の策定やその他の事業において、市民アンケート等の調査を行い、公共交通に関する現状や課題、市民ニーズ等を調査させていただきました。今後についても、市民のご意見を参考にしながら、本計画に基づく取組を行ってまいります。 |
| 聞くところによると旭川市の職員は通勤にマイカーを使わない。バスの利便性を高め、料金も出来るだけ低くし、一般の人々の通勤はバスを推奨することで変化が起きるかもしれません。 | 持続可能な公共交通網の構築のためには、外出機会が多い年代の公共交通の分担率の上昇が必要であると考えられます。本計画に基づき利便性の向上等に向けた取組を行い、利用の促進を図ってまいります。 |
| 地下鉄、バス、JR線の旭川市内全線の拡大とともに更に便利になる。高速電車が開業すればいいと思う。 (類似意見1件) | 市内の公共交通の利便性向上のため、JRとバス会社間の効率化や連携の強化を検討するとともに、JR路線の維持に向け、日常利用や観光利用の増加を図るために、効率的な利用促進策を実施してまいります。いただいた御意見につきましては、本計画の取組の推進に当たり、参考とさせていただきます。 |
| 15年後の計画実施では、今の高齢者は間に合わない。できる計画から実施すべき。 (類似意見2件) | 本計画の計画期間は令和9年度までとなっており、計画に基づく取組は計画期間の中で進めてまいります。また、コンパクトなまちづくりは長期的な取組であることから、おおむね15年後の将来像についても見据えた計画としております。持続可能な公共交通網の構築に向けては、双方の観点から検討を行ってまいります。 |